

## 44 ワカウラツボ

(ワカウラツボ科)

兵庫県ランク:A

*Fairbankia sakaguchii*

環境省ランク:VU

### 種の概要

三河湾から九州に分布し、瀬戸内海に既知産地が多い。内湾環境下の河口干潟に生息し、干潮時に露出する泥または砂泥底に半ば埋まる岩礫や流木などの底面や側面に付着している。アナジャコ類やカニ類、ゴカイ類などが岩礫面に沿って開けた生痕周辺にヒナユキスズメ(貝類Aランク)などとともに付着していることが多い。殻皮はアズキ色や橙褐色で、時に白色や黒色の個体もある。軟体は橙・桃色を帯びる。殻長4~5mmの紡錘形で、体層は殻高の50%以上を占める。殻質は堅固で、殻表面に螺条脈を有する。

### 主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○	△		○

### 県内分布

姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、南あわじ市

### 県内における生息状況及びその他特記事項

ランク変更なし。播磨西部の揖保川水系以西の河川と、淡路島南部で確認している。分布域内では、干潮時に露出する岩礫が埋もれた泥底帯が存在すれば、河川規模を問わず生息が確認されている。しかし、生息地においては非常に散見的であり、マイクロハビタットを要求する種類である。

### 保護上の留意点

アナジャコ類やカニ類、ゴカイ類などが適度に産することも必要である。また、還元環境であるものの、人工的な汚濁成分が多いのは不適である。逆に、水通しがよく底床に砂が多くなり、酸化傾向になるのも本種の生息にそぐわないなど、人工的に創造しにくい環境であることから、広範囲の干潟環境の保全に努めるのが望ましい。



写真提供：増田修



写真提供：川淵千尋

【執筆者】 増田修